

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 細川 大輔

1. はじめに

この度、大阪薬科大学の国際交流基金の助成を受け、2019年8月18日から2019年8月25日までカナダのバンクーバーで語学研修に参加したので報告をいたします。

2. 授業

バンクーバーでは、Oxford International North America という語学学校に通い、毎日午前は英語でのディスカッションや英語を使ったゲームをしました。語学学校内では英語のみ使用可能というルールがあったので、一緒にいった13人の先輩や同級生と英語でコミュニケーションが取れてとてもいい経験になりました。また先生の説明もとても分かりやすく、楽しみながら英語を学習することができました。



3. 施設見学

午後からは薬局や病院など医療施設見学に行きました。その中でも一番印象に残っているのは、私立の検査施設に行ったときに、お金さえ払えば予約してから一週間も待たずに検査を受けられるということです。日本では待ち時間はあるものの、病院に行きさえすれば検査をしてもらえることがほとんどですが、カナダでは病院とは別の検査施設でもまた予約を取る必要があるので、よほどの急患でない限り訪れた日に検査をしてもらえないそうです。このように、日本とカナダの医療の違いや共通点をかなり具体的に知ることができ、とても有意義な時間となりました。

4. 観光

授業が終わると、ホームステイ先が同じ人を中心にそれぞれ街中を歩いてバンクーバー観光を楽しみました。私のホームステイ先がノースバンクーバーという、中心地からバスで30分ほどの自然豊かなところだったので、カナダの自然と観光地の二つ

の顔を知ることができてよかったです。また、カナダと一緒にいった13人の方々とみんなでイングリッシュベイに行って、カナダの伝統料理のポーターンを食べながら見た夕焼けや、グランビルアイランドという観光地まで歩いていったときに、途中で渡った橋から見えた景色は、一生忘れられないくらいの美しいものでした。このように、毎日授業がある上にわずか1週間しかない研修でしたが、カナダの文化や雰囲気を十分に味わうことができました。



カナダの伝統的な食べ物、ポーターン

5. 終わりに

今回は全員が協力してみんな仲良くカナダでの生活を送ることができました。日が沈むのが遅く、とても涼しくていい気候のカナダから日本に帰ってくるのが惜しいと思うほどに充実した時間を過ごせました。普通に大学に通っているだけではなかなかできない新たな縦のつながり、横のつながりができたので、とてもうれしいです。

最後に、一緒にいった先輩方、同級生はもちろん、多くの面で支えてくれた家族、有意義な研修になるように尽力してくださった大学の多くの方々や JTB の方々、現地でサポートしてくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。多くの方のおかげで楽しい時間を過ごせたことに感謝して、これからの大学生活を大切に過ごしていきたいと思います。



橋の上からの景色



グランビルアイランド